



慶應義塾大学ビジネス・スクール

ひとつの医療機器が起こした、心臓弁膜症の治療革命 (B) 5

— 経カテーテル大動脈弁治療 (TAVI) —

2002年4月、アメリカ、ニュージャージー州、PVT社オフィス 10

— 不確かな状況下で迫られる決断 —

スタン・ロウ (Stan Rowe) は顔がこわばるのを感じた。

「今すぐには返事ができない。少しだけ時間をくれないか。」

しばらく沈黙したのちにそう告げると、電話の向こうから、いら立ちを隠そうともしないうめき声が聞こえてきた。 15

「時間をかけている暇はないんだよ。この患者は今すぐに死んだって何の不思議もない。大体いま生きていくことのほうがおかしなぐらいの瀬戸際なんだ。このままだと今日明日にも、彼は確実に死ぬ。だけど私たちのあの弁を使えば、助けられるかもしれないんだ！いま使わないでどうする、私に患者を見殺しにしろというのか？我々には助けられるかもしれない手段があるというのに？」 20

電話を握りしめ、いらいらと歩き回るアラン・クリビエ (Alain Cribier) の姿が見えるような気がした。

「アラン、言っていることはわかる。けれど私たちの弁はついこの間やっと、ヒトの死体での試験を開始したばかりじゃないか。急に実際の患者に使いたいと言っても、そうすぐには判断ができない。」

「そんなことはわかっている。だけどこの新しい人工弁があれば、助けられそうな患者がここにいるんだ。彼は死にかけているんだよ！我々は何のためにこの弁を開発してきたんだ？こういう患者を助けるためじゃないのか？」 25

.....
このケースは、慶應義塾大学大学院経営管理研究科 後藤 励と米国医療機器・IVD工業会 (AMDD) 医療技術政策研究所 リサーチフェロー 児玉順子・緒方令奈により作成された。ケース内の企業名等のうち一部仮名の場合がある。なお、このケースはクラス討議のための資料としてまとめられたものであり、経営管理に関する適切あるいは不適切な処理を示すことを意図したものではない。

本ケースは慶應義塾大学ビジネス・スクールが出版するものであり、複製等についての問い合わせ先は慶應義塾大学ビジネス・スクール (〒223-8526 神奈川県横浜市港北区日吉4丁目1番1号、電話 045-564-2444、e-mail: case@kbs.keio.ac.jp)。また、注文は <http://www.kbs.keio.ac.jp/> へ。慶應義塾大学ビジネス・スクールの許可を得ずに、いかなる部分の複製、検索システムへの取り込み、スプレッドシートでの利用、またいかなる方法 (電子的、機械的、写真複写、録音・録画、その他種類を問わない) による伝送も、これを禁ずる。 30

Copyright © 後藤 励、児玉順子、緒方令奈 (2018年10月作成)